(2019.4改正)

**＜別紙１＞**

**第三者評価結果報告書**

①第三者評価機関名

|  |
| --- |
| 株式会社フィールズ |

②施設・事業所情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 名称：コビープリスクールかたくら | | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：染谷　祐子 | | 定員（利用人数）：60(利用人数59名)名 | |
| 所在地：〒221-0865　　横浜市神奈川区片倉2-1-1 | | | |
| TEL：045-565-9345 | | | |
| ホームページ：https://www.coby.jp/ | | | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | |
| 開設年月日：2019年4月1日 | | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社コビーアンドアソシエイツ | | | |
| 職員数 | 常勤職員：　14名 | | 非常勤職員：　7名 |
| 専門職員 | （専門職の名称）　　　　　名 | |  |
| 保育士：常勤10名／非常勤6名 | | 栄養士：常勤2名 |
| 調理師／常勤1名 | | 看護士：常勤1名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数）保育室：7 | | |
| （設備等）トイレ（園児用）：3、多目的トイレ：1、調理室：1、  事務室：1、休憩室：1、屋上園庭：1 | | |

③理念・基本方針

|  |
| --- |
| ■保育理念  ・健康で明るく豊かな感性を持つ子ども  自然を活用した戸外でののびのびとした遊び、室内遊具を利用した体育遊びなどを通じて、豊かな感性を育て、力いっぱい身体を使って元気で健康的に活動できる子どもを育む。  ・のびのびと創造的に自己を表現できる子ども  大自然とのふれあいや生活、遊びを通して、疑問や探究心、創造や想像の喜びを知り、豊かな感性を表現できる子どもを育む。  ・国際性の豊かな子ども  日本の歴史や伝統に触れる機会、異国の文化に触れる機会を通じて豊かな国際性を育む。  ・自分から物事に意欲的に取り組み、やりとげる子ども  園生活から学んだり身につけたりしたことから、自ら物事を判断し自分から意欲的に最後までやりとげる力を持つ子どもを育てる。  ・おおらかで思いやりがあり、“とりまく人々”を大切にする子ども  マトリクス保育を通じ、異年齢児との交流の中から「思いやり」や「優しさ」を持つ子どもを育む。 |

④施設・事業所の特徴的な取組

|  |
| --- |
| Quality Childcare and Solusionsを社是に、感動を伴う高品質な保育を目指しています。子どもの成長に子ども自身が感動でき、その感動が保護者の方々にも伝わり、さらには保育者も一緒に感動できる保育を展開してまいります。  　また、発達段階別保育と異年齢児交流保育をかけあわせた独自の保育メソッド「マトリクス保育」を基軸に保育を展開しています。年長児はリーダーシップややさしさ、思いやりを育み、年少児は憧れを抱かせることで育ちを促し、生まれながらに持っている力を引き出します。  　運営会社は約70年の保育の歴史と実績を持ち、全国で34施設の保育園を運営しており、膨大な経験から蓄積された安心・安全の保育を展開しています。 |

⑤第三者評価の受審状況

|  |  |
| --- | --- |
| 評価実施期間 | 令和3年9月15日（契約日）　～  令和4年3月22日　（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | ―回（　　　―年度） |

⑥総評

|  |
| --- |
| ◇特に評価の高い点  １)さまざまな活動による豊かな体験  季節や社会行事に合わせたさまざまな活動を企画し、異年齢児交流保育と年齢別保育を計画的に実施しながら、子どもたちに豊かな経験ができるよう工夫しています。幼児クラスは通常のカリキュラムの中に、体育保育、音楽保育を実施し、専門性の高いスタッフによる、跳び箱や平均台、楽器演奏やリズム遊びなどさまざまな体験を提供しています。「本物」体験を大切にし、発表会では公共のホールを借りて照明や音響を使いステージを演出するなど、子どもたちの感動、そして心の成長を大切にして展開しています。  ２)安全でおいしい食事の提供  「おいしい食事」を提供することを食育の原点とし、高い調理技術で工夫を凝らした食事を提供しています。ダイニング（食堂）で異年齢児のグループにより楽しく食事をする環境を作っています。「こだわりの逸品」プロジェクトで保護者の試食会も開催し、コミュニケーションの場を作っています。水質検査から食品の温度管理など食の安全を徹底し、入園時の「嗜好調査」の実施で、アレルギーのある子どもには見た目も変わらぬよう配慮した除去食を提供しています。  ３)家庭との連携の工夫  コロナ禍で家庭との連携が難しくなる中、工夫を凝らして連携をとるよう努めています。入口のディスプレイで、その日の保育をまとめたフォトエモーションを上映し、子どもたちが降園準備をしている時間に保護者が見られるようにしています。個別面談は保護者の希望に応じて随時受け付け、面談内容を記録し関係職員で共有しています。また、「ファミリーデイ」を実施し、毎月5、15、25日の午前中に、保護者が保育参観できる取組も行っています。発表会や卒園式では、１年の保育をまとめたムービーを上映し、子どもたちの成長を伝えています。  ◇改善を求められる点  1)保護者がより理解を深めるための保育理念等の周知方法の検討  保育理念、保育方針は、法人と園が目指す方向性や考え方を明確に表出し、園のホームページで広く周知が図られています。保護者へは、入園時の個別面談で、重要事項説明書に沿って、説明を行っています。苦情解決の仕組みについては、園だよりにも掲載して入園後も周知を図るなどしています。利用者調査では、理念や苦情解決の仕組みについての理解度が低い状況がありますので、より保護者が理解を深めるためのさらなる取組が期待されます。  ２)地域交流、地域支援の実現に向けた取組  園では、園見学で訪れる地域の保護者の相談に対応したり、町内会とのつながりを通じて、地域の状況を把握するよう努めていますが、コロナ禍の影響もあり、地域交流や地域支援の実施が難しい状況となっています。今後は、新しい生活様式を踏まえて、子どもたちが地域の人々と交流を拡げるための取組方法や、育児に関する講座などを地域に向けて開催するなど、園の持っている専門的な知識や情報を地域に還元する取組方法を検討されることが期待されます。 |

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

|  |
| --- |
| 保育園の運営について、日頃より法人全体や保育園全体、さらに園長や保育士など個人レベルでも自己評価や振り返りを行っていますが、今回、客観的な見地から評価いただき、大変参考になりました。  開園から3年目となり、そのうちの2年がコロナ禍のため、さまざまな制限があるなかでの保育運営となっています。日常の保育や行事は、安全を確保しながら工夫し、豊かな遊びや体験ができるよう展開していますが、保護者さまに参加いただく取り組みや地域との交流については感染対策の観点から実施できていないものがあります。安全に配慮しながら、保育への理解促進や地域交流など、保護者さま、そして子どもたちにより良い保育を提供できるよう努めてまいります。 |

⑧第三者評価結果

　　別紙２のとおり